

# 対ブラジル連邦共和国 国別援助方針

2012 年 12 月

## 1. 援助の意義

ブラジルは世界第 5 位の面積・人口（中南米最大）を抱え、世界第 6 位の経済規模を誇り、昨今の著しい経済発展に伴い地域大国を超えたグローバル・プレーヤーとしての国際的地位を高めてきている。ブラジルには約 150 万人の日系人の存在もあり、我が国は伝統的な友好関係を築いている。また、豊富な鉄鉱石、石油などの地下資源、世界最大の食料増産余力、産業競争力強化のためのインフラ整備や技術開発への需要拡大など、今後、我が国との経済関係がますます深化することが期待されている。2006 年、ブラジルは地上デジタルテレビ放送の日本方式を採用し、その後、南米、アフリカ諸国への普及において協力してきている。また、開発協力の分野においても、日本とブラジルは第三国に対する三角協力を積極的に推進している。

一方、ブラジルでは人口の 8 割以上が都市部に在住し、都市化が急速に進んでいるが、それに見合った都市部のインフラ整備が遅れており、環境・衛生の悪化、交通渋滞、自然災害への脆弱性など様々な問題を抱えている。また、世界最大の熱帯雨林を保有する同国においては、生物多様性保全の観点から森林・自然環境の保全も重要である。さらに、同国は温室効果ガスの排出量も世界上位に位置し削減ポテンシャルが高く、気候変動の影響を受けるリスクも高いことから、気候変動の適応面での対策が求められている。

ブラジルは既に 2010 年度に円借款の卒業基準を超えていることから、活用できる ODA スキームは基本的には技術協力に限られるが、上記のような状況を踏まえ、我が国がブラジルに対して引き続き今後の我が国との経済関係強化に資する案件について ODA を通じた支援を行うことは、ブラジルが抱える様々な問題の解決を後押ししつつ、我が国による資源や食料の安定的確保、成長を続けるブラジルとの経済関係の一層の緊密化に繋がることを期待されるといった意義が認められる。また、両国が協力して第三国を支援していくことにより、このような良好な両国関係が更に成熟したものとなることを期待される。

## 2. 援助の基本方針（大目標）：持続的開発への支援と互恵的協力関係の促進

我が国との経済関係を更に発展・深化させていくために、ブラジル政府が掲げる「成長加速プログラム」を踏まえ、急速な都市化がもたらす弊害を緩和し、天然・食料資源の安定的供給に資する分野への支援を行っていく。また、三角協力を通じた互恵的協力関係を構築していく。

### 3. 重点分野（中目標）

#### （1）都市問題と環境・防災対策

都市部における環境・衛生の改善、交通渋滞の緩和といった都市環境の悪化に対し、日本の先進的な技術を活用した環境負荷の少ない環境配慮型都市構築の分野で支援を行っていく。また、防災リスク管理における支援も行っていく。

#### （2）三角協力支援

我が国は 2000 年にブラジルとの間で開発協力のパートナーシップ・プログラム (JBPP: Japan-Brazil Partnership Programme) を締結し、以来、この枠組みを通して、日・ブラジル双方の開発方針に合致する分野において、中南米やポルトガル語圏アフリカ諸国に対し三角協力を実施している。引き続き、両国、被援助国間の緊密な連携の下に効果的な支援を実施していく。

### 4. 留意事項<sup>1</sup>

（1）援助効果ハイレベルフォーラム等の議論においても、三角協力は昨今高い注目と評価を得ている援助ツールであることから、積極的に推進していく。

（2）ブラジルは既に円借款の卒業基準を超えており、近い将来に同国が ODA 卒業国となることも念頭に置きつつ、我が国との経済関係強化に資する分野を中心に支援を検討し実施していく。

（3）ブラジルに対する経済協力の案件形成・実施に当たっては、日系社会の存在も考慮する。

（了）

別紙： 事業展開計画

---

<sup>1</sup>なお、同国を対象として実施された過去の ODA 国別評価は次のとおり。

ブラジル国 国別評価（2009） 報告書掲載先：  
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hyouka/kunibetu/brazil.html>